

第28回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

平成30年5月30日（水） 10:00～11:45

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

青木部会長、片岡部会長代理、久保委員、鈴木委員、中須賀委員、名和委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、山口参事官、須藤参事官、高倉参事官、佐藤参事官、滝澤参事官、津井企画官

(3) 関係省庁等

内閣官房 国家安全保障局 伊藤審議官

内閣府 総合海洋政策推進事務局 森下参事官

外務省 総合外交政策局 宇宙室 泰松室長

防衛省 防衛政策局 戦略企画課 花井先任部員

防衛省 防衛研究所 政策研究部 橋本部長

4. 議事要旨

(1) 宇宙基本計画工程表の改訂に向けた中間取りまとめについて

資料1に基づき、事務局から説明があった。委員から以下の意見があった。

(以下、○意見等、●事務局の回答)

- 「工程表24 宇宙システム全体の機能保証強化」について、量子暗号技術は機能保証強化の前提となる技術だが、安全な通信の確保といった重要な内容は別項目でしっかりと記載した方が良いのではないかと。
- 工程表24とは別に「工程表13 技術試験衛星」の取組として、「衛星通信における量子暗号の研究開発」の記述がある。工程表24における量子暗号技術の記載要領について検討する。

- 「工程表51 宇宙安全保障の確保に向けたその他の取組」について、米国では情報を集約するシステムが存在するので我が国も検討していけばよいのではないかと。

(2) 宇宙空間に関わる安全保障の状況について

資料2に基づき、防衛省防衛研究所より説明があった。委員から以下の意見があった。

(以下、○意見等、●防衛省防衛研究所の回答)

- 我が国の限られた予算等の状況を踏まえ、日本として宇宙安全保障を強化するためにはどの分野に重点的に投資すべきか。
- センサーや通信など、現在又は近い将来実現可能な分野に集中すべきである。また衛星開発の継続性が重要である。

- 日本独自の衛星開発の継続性を保ちながら米国等の変化に柔軟に対応するためには、如何に戦略的発想を持つべきか。
- 従来はハード面が注目されてきたが、今後はソフト面のインターオペラビリティを保つことが大事である。具体的には、国内の産官学の衛星データを集約した一つのプラットフォームを形成し、これを日米の連携に拡大するといったことが考えられる。

(3) 第3期海洋基本計画及び我が国の海洋状況把握能力強化に向けた今後の取組について資料3-1、資料3-2に基づき、内閣府総合海洋政策推進事務局より説明があった。委員から以下の意見があった。

(以下、○意見等、●内閣府総合海洋政策推進事務局の回答)

- 衛星で何を観測するのかを具体化することが重要である。広範囲を観測するか、特定の地域を観測するのかによって、空間分解能に加えて時間分解能が重要になってくる。また、政府衛星に加えて民間から衛星画像を購入する等、民間の活用についても検討してもらえればと思う。
- MDAにおいて、対象の海域に入った船舶を将来的には全て識別するのか、或いは観測可能なものを識別するのか。
- 理想的にはすべからず観測することが望ましいが、地球観測衛星による観測と現場による確認を組み合わせる取り組みをしていくことが現実的と考えている。

以上